山形便り　令和４年　２月　６日

近くの川に白鳥の群れが入れ替わり立ち寄っています！

　みちのく出羽の国にもコロナウイルスが波状的にやってきています。白河の関を越えて、仙台回りか福島県境越か、新幹線でか、車でか、はたまた飛行機か、山形市を中心に侵入し増えていましたが、最近は、陸の孤島庄内でも急増しています。最上狭を通って清川口からか、鼠ヶ関からか、庄内空港なのか、とうとう、山形市と庄内全域、さらには置賜にもまん延防止等措置が適用する状態になっています。
　さて、やって来たのは嫌な奴だけではありません。
バブル経済の最中、タイミング悪く、慌てて仕方なく、山形市の南西部を流れる須川べりの宅地を購入し住んでいます。例年、鴨の群れが長く滞在していきます。時折、サギも来ます。
　今年は、１月下旬に入って白鳥の群れが立ち寄って来ています。独特の鳴き声が聞こえ始めると２日位で２０羽ほどの群れとなり、数日から１週間ほど車や人、さらには犬が通る側で川を上ったり下ったりしています。しばらくたつと、夜から朝にかけて、かなり、群れ全体で鳴き声が賑やかというより騒がしくなり、夜明けには飛んでいきます。これまで、３群ほど立寄っていきました。
　住宅地の側なので人や犬は通りますが、流れもゆるやかで浅瀬もあり安全なところですが、水が酸性で魚もいません。(数十メートルの所に真水の支流が注いでいますが)草もほとんどありません。気に入ってくれると良いのですが。

　白は白鳥、黒は鴨と石です。

　コロナウイルスよ、もう来ないでくれ、増えないでくれ。白鳥よ、毎年、来てくれ、切なる願いです。皆さん、コロナウイルスもあと数か月が山ではないでしょうか。再会を楽しみにしています。